

2021 3月号
VOL.087

KANAKEI

日本一明るい経済新聞 神奈川版

INNOVATION

〈発行日〉2021/3/12
〈発行〉かながわ経済新聞同業会社(Kanakei.LLC)
編集長 千葉龍太
TEL 042-851-3021 FAX 042-851-3532
〒252-0239 相模原市中央区中央 3-12-3 相模原商工会館 本館 1F
〈監修〉産業情報化新聞社 編集長 竹原信夫
〒550-0003 大阪市西区京町堀 1丁目 14-25 京ニビル 205号
TEL 06-6445-7405 FAX 06-6445-7406
URL <http://www.akaruinews.com>
〈制作〉神奈川新聞社
〈題字制作〉株式会社クライムエヌシーデー

※本紙全てのコンテンツの無断転載・複写・転用を禁止いたします。

ワクチン輸送、県内企業が一役

EFI、超低温冷凍コンテナを展開

新型コロナウイルスのワクチン輸送の分野で、県内企業の製品が一役買おうとしている。EFインターナショナル(EFI、横浜市中区相生町、☎045・264・4540)は、マイナス70度Cの超低温輸送ができるISO20フィートコンテナ「スーパーフリーザー-70C」の本格展開に乗り出す。ワクチンの海上輸送から陸送、保管までを1台でカバーできるもので、1コンテナで30万回分のワクチンが運べる。全国でワクチン接種が始まることをにらみ、普及を急ぐ。

EFIは、海上コンテナを中心に、コンテナ売買からリース、サポートまでを手掛ける企業。その一環としてワクチン対応コンテナを始めた。

同社によると、海外からの新型コロナワクチン輸送は現在、空輸を中心としており、低温状態を保つためにはドライアイスが使われる。しかし、空輸だと一度に運

べる量が限られてしまい、今後はドライアイス不足も懸念される。それに対し、海上輸送は大量に運べるほか、同コンテナを使うことでドライアイスが不要になる。

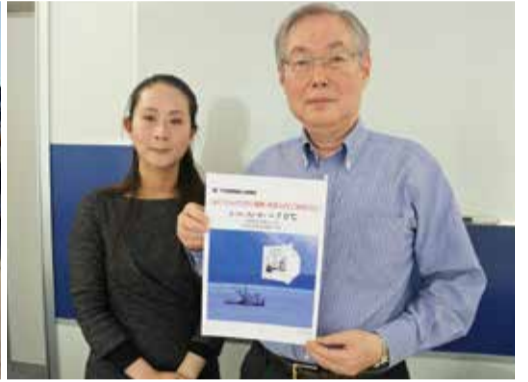
同コンテナは米サーモキングが開発し、日本ではEFIが初めて販売契約を結んだ。マイナス60度Cの環境が求められる冷凍マグロのコンテナ輸送技術を



応用。米ファイザー製ワクチンの輸送に必要なマイナス70度Cを実現した。20フィートコンテナのため、海外生産工場から日本の保管場所までの輸送が一

貫して担える。また「ワクチン貯蔵庫としても使えます」(阿部竜士執行役員)と言う。10フィートサイズもそろえた。EFIでは、同製品の普及に向け社内

にプロジェクトを新設。大手物流企業や関係機関、医療施設などに提案していく。販売価格は1台1000万円以下を見込んでいる。



人材育成で「月替わり工場長」

アポロテック、社員のスキルアップを図る

フォーミング加工、アポロテック(横浜市都筑区池辺町、☎045・929・0421)は、社員教育の一環として「月替わり工場長」のプログラムを始めた。入社年度を問わず、生産に携わる社員の中から工場長と副工場長を毎月選び、業務を回していく。対象となる全社員が持ち回りで経験することで、会社や工場運営に対する理解を深めてもらうと同時に、スキルアップにつなげる。

工場長・副工場長に任命されたペアは、朝礼を仕切ることから始まり、受注後に現場への生産指示や、協力企業の手配、材料の効率的運用などを任せられる。経験が浅い社員でも務められるよう、副社長と専務がサポートする。

「例えば、イレギュラーな仕事が入ってきたとしても、工場を止めないためには生産現場で人材をどう配置するのかなど、工場長の役割はたくさんあります。それを経験してほしいです」と齋藤孝行社長。今までは自分の仕

事だけをしていればよかったが、工場を回す立場になるとそうはいかない。「工場全体や周囲が見えていなければ工場長は務まりません。1カ月間経験することで、その後の業務にも生かしてほしいです」(齋藤社長)。また、朝礼や日常業務の中で「報・連・相」の大切さも身に付けてほしいとする。

現在、生産部門に関わる社員は約15人。毎月、ペアでローテーション制

にすることで、少なくとも社員1人当たり年2回は工場長・副工場長業務が経験できる。ペアの選定は、中堅と新人などの組み合わせを想定。まずは1年間やってみて、社員たちの仕事ぶりや意識がどう変わるかを検証していく。

なお、同社はフォーミング加工が専門。同加工は、折り返しの多い複雑な曲げ形状の部品を加工する技術で、ハイブリッド車のモーターや微小な電子部品、時計の精密ばねに採用されている。



マスク未着用者も検出、LINE通知

ネオテックジャパン、サーモカメラ開発

ネオテックジャパン(川崎市宮前区土橋、☎044・862・4768)は、マスク未着用や発熱した人を検知し、プライバシーに配慮して管理者にLINEで通知する非接触型のサーモカメラシステムを開発した。その場でアラートも鳴らせる。クラスター発生対策としてだけでなく、ポストコロナ時代における新しい出退勤管理ツールとしても普及させていく。

「AI-SOXAN(エーアイソクサン)」と名付けた同システムは、AI(人工知能)を搭載。カメラから0.5~1.5m以内で対象者の体表面温度を計測する。マスク未着用者や、事前に設定しておいた体温を上回る人がいたら瞬時に検出。マスク未着用者には警告する機能も付いている。

身長145~180cm程度までの人が、背伸びをしたり屈まなくてもスムーズに計測できるユニバーサルフィット設計と、装置がインテリアにマッチするよう大手家具メーカーと開発した無垢材の専用カバーも特徴だ。オプションで顔認証機能も追加可能だ。コロナ終息後には健康管理と出退勤管理を兼ね備えた入館管理デバイスになるとして、勤怠管理ソフトや入場ゲートも

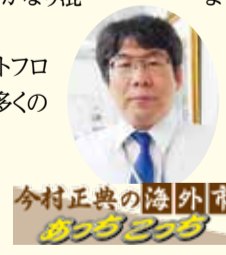
提供できるという。価格は本体とスタンド、通知サービス付きで定価38万5000円(税別)。「温度が測れる非接触デバイスは市場には数多くあります。そのため、どうやったら使いやすいかを考え、デザインとマニュアルのみで簡単に設定できるような使い勝手を追求しました」と、加留部貴士社長は話している。



ミャンマークーデター

軍のクーデターによって、軍政に移行し、民主化が大きく後退してしまつたミャンマーですが、民主化を求める市民によるデモが大きく広がり、軍の発砲による犠牲者も出てしまったことから、国内情勢がかなり混乱してきています。「東南アジアのラストフロンティア」と言われ、多くの日本企業が進出していました。私の知人も、コロナ禍の中でも日本に帰国せずに、現地での事業を進めていましたが、現在の国内情勢では事業の継続は困難になってきたと判断し、撤退に向けて動いています。今後の様子では大手も含めて、日本人駐在員の帰国や撤退という判断をする企業が増えてくるのではないかと思います。数年前と比較して、途上国では日本や欧米のような民主主義ではなく、非民主主義体制となっていくことが

多いように思います。ミャンマーもそうですが、経済成長の恩恵が一部の富裕層だけの既得権益となっている国々では、民主化することでその既得権が奪われてしまう可能性があることから、欧米や日本のような民主化を進めることがリスクであると感じられているのかもしれない。しかも、民主化を選択せずに欧米からの制裁を受けることになっても、中国やロシアといった非民主主義の国々に接近するという選択ができるようになり、このままの状態が続けば、欧米や日本といった「民主主義陣営」と、中国、ロシアを中心とした「非民主主義陣営」という形での新たな「冷戦」が始まってしまうのではないかと、少し不安です。(のぞみ総研代表取締役)



今村正典の海外市場